

漁獲シナリオ等の検討について 今後のスケジュールについて

資源管理方針に関する検討会
～第5回マアジ太平洋系群・対馬暖流系群～

令和7年9月11日(木)

水産庁

資源管理目標の案

● 資源評価に基づき研究機関から提案されている資源管理目標の案を採用する。

	太平洋系群		対馬暖流系群	
項目	新しい案	現行	新しい案	現行
目標管理基準値 ＝MSYを達成するために維持・回復させるべき目標となる親魚量	52千トン	60千トン	273千トン	254千トン
限界管理基準値 ＝MSYの60パーセントを達成するために必要な親魚量	14千トン	15千トン	103千トン	107千トン
禁漁水準 ＝MSYの10%の漁獲量が得られる親魚量	1.5千トン	1.7千トン	14千トン	16千トン

漁獲シナリオの案：マアジ太平洋系群

- 親魚量が10年後(2036年)に目標管理基準値を50パーセント以上の確率で上回る漁獲シナリオのうち、**将来の漁獲量が最大**となる $\beta = 0.9$ を選択。
- 親魚量の値が限界管理基準値を下回っている場合には、漁獲圧力は、当該親魚量の値から禁漁水準値を減じた値を限界管理基準値から禁漁水準値を減じた値で除すことにより算出した係数を、 $\beta = 0.9$ に乗じた値とする。
- 親魚量の値が禁漁水準値を下回っている場合には、漁獲圧力は0とする。

表1. 将来の平均親魚量 (万トン)													2036年に親魚量が目標管理基準値案 (5.2万トン) を上回る確率
β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	
1.0			4.1	4.8	5.1	5.1	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	44%
0.9			4.3	5.2	5.7	5.7	5.7	5.8	5.8	5.8	5.8	5.8	55%
0.8	2.7	3.1	4.6	5.8	6.3	6.4	6.4	6.4	6.5	6.5	6.5	6.5	65%
0.7			4.9	6.4	7.1	7.1	7.1	7.1	7.2	7.3	7.3	7.3	76%
現状の漁獲圧			3.2	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2	3.2	14%

表2. 将来の平均漁獲量 (万トン)												
β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
1.0		2.5	3.0	3.3	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
0.9		2.3	2.9	3.3	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5
0.8	3.1	2.1	2.8	3.2	3.3	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4
0.7		1.9	2.6	3.0	3.2	3.2	3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3
現状の漁獲圧		3.2	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.2	3.2

漁獲シナリオの案：マアジ対馬暖流系群

- 親魚量が10年後(2036年)に目標管理基準値を50パーセント以上の確率で上回る漁獲シナリオのうち、**将来の漁獲量が最大**となる $\beta = 0.9$ を選択。
- 親魚量の値が限界管理基準値を下回っている場合には、漁獲圧力は、当該親魚量の値から禁漁水準値を減じた値を限界管理基準値から禁漁水準値を減じた値で除すことにより算出した係数を、 $\beta = 0.9$ に乗じた値とする。
- 親魚量の値が禁漁水準値を下回っている場合には、漁獲圧力は0とする。

表1. 将来の平均親魚量 (万トン)						2036年に親魚量が目標管理基準値案 (27.3万トン) を上回る確率							
β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	
1.0			28.2	27.9	27.7	27.7	27.6	27.4	27.4	27.5	27.6	27.6	44%
0.9			29.8	30.0	30.1	30.1	30.1	29.9	29.9	30.0	30.1	30.1	54%
0.8	24.0	28.2	31.4	32.5	32.8	33.0	33.0	32.9	32.8	32.9	33.0	33.0	65%
0.7			33.3	35.4	36.1	36.4	36.4	36.3	36.2	36.3	36.5	36.5	76%
現状の漁獲圧			30.4	31.0	31.1	31.2	31.2	31.0	31.0	31.1	31.2	31.2	59%

表2. 将来の平均漁獲量（万トン）												
β	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
1.0		19.3	19.3	19.1	19.0	19.0	18.9	18.8	18.8	18.9	18.9	18.9
0.9		18.0	18.7	18.8	18.8	18.9	18.8	18.7	18.7	18.8	18.8	18.8
0.8	15.6	16.5	17.9	18.4	18.5	18.6	18.5	18.5	18.5	18.5	18.6	18.5
0.7		14.9	16.9	17.8	18.0	18.1	18.1	18.1	18.1	18.1	18.2	18.2
現状の漁獲圧		17.4	18.4	18.6	18.7	18.8	18.7	18.6	18.6	18.7	18.7	18.7

TACの案：マアジ

- マアジは従来から太平洋系群と対馬暖流系群の2系群に分けた資源評価が行われてきたが、
 - ①東シナ海での産卵に由来する当歳魚の一部は太平洋岸に加入する、
 - ②太平洋系群の資源水準を左右するのは東シナ海からの加入群の多寡による、とも考えられている旨、資源評価報告においても記載されている。
- このため、資源管理の目標、漁獲シナリオ、漁獲圧力及びABCは系群別に定めるものの、TACは、両系群のABCの合計値の範囲内で一括して行うこととする。
- ABCのうち日本EEZ分を算出し、その合計値をTACとする。
- 令和8管理年度のTAC案は183.2千トン。

	ABC	日本EEZ分	TAC
太平洋系群	23千トン	100%	23千トン
対馬暖流系群	180千トン	89%	160.2千トン
合計			183.2千トン

今後のスケジュールについて

R7年 5月19日	第4回SH会合 ・ 現行の資源管理方針及び資源の状況等について説明 ・ 今後SH会合で検討すべき事項について説明・議論
R7年8月29日	資源評価結果公表
R7年 9月11日	第5回SH会合 ・ 令和7年度資源評価結果について説明（資源管理の目標（案）及び漁獲シナリオ（案）の提示を含む。） ・ 資源管理目標、漁獲シナリオ等の議論
10月	第6回SH会合 ・ 資源管理目標、漁獲シナリオ等の議論の続き ・ 議論の取りまとめ
10月	パブリックコメント開始 （SH会合の取りまとめを反映した、資源管理方針の変更（案））
11月	水産政策審議会資源管理分科会 ・ 資源管理方針の変更（案）に対する意見聴取 ・ 令和8（2026）管理年度のTAC及びその配分（案）に対する意見聴取
12月	資源管理方針の変更及び令和8管理年度のTACの決定
R8年1月	変更後の資源管理方針等に基づくTAC管理開始

本日の検討会はこちら